

「折り鶴パビリオン」一番乗りの

認知症でも働けるカフェの運営などを手がける市民団体が先月、2025年大阪・関西万博で一番早く「パビリオン」と名乗る展示施設を門真市の商業施設内に完成させた。万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」の実践として、折り鶴づくりによる認知症の人の社会参加に取り組んでおり、「100万羽の折り鶴で世界からの来場者を迎える」構想を掲げる。

(福永健人)

認知症支援団体門真に開設



活動をPRする森さん(左)と角脇さん(門真市で)



万博公式記念品に採用され、海外パビリオン関係者に配られる折り鶴セット



100万羽制作構想 「輝ける場」世界に発信

企画したのは、同市内の介護関係者らで作る市民団体「ゆめ伴プロジェクトin門真実行委員会」。団体の代表で、グループホームを経営する角脇知佳さん(53)らが2018年から活動している。

当初はカフェや農場の運営に取り組んだが、間もなくコロナ禍に巻き込まれた。「在宅でも社会とつながりを持てる活動はないか」と模索し、認知症の人や家族らが自宅で折った折り鶴を市内の公共施設などで展示するイベントを始めた。

活動は市外にも広がり、「万博で100万羽の折り鶴」という構想に発展。21年には、大阪・関西万博公式の「TEAM EXPO 2025」プログラム共創チャレンジに登録された。同年、アラブ首長国連邦(UAE)で開かれた「ドバイ万博」では、この活動で作った折り鶴が日本館の来場者らに配られた。

さらに今年から、京阪門真市駅に隣接する商業施設「イズミヤショッピングセンター門真」の一角で折り鶴の展示に取り組み、先月

16日、同施設の空きテナントに「いのち輝く折り鶴JAPANパビリオン」を開設した。

約120平方メートルの会場には、ツリー状やカーテン状につないだ折り鶴約5万羽を飾り、プロジェクトを紹介する資料や笑顔で鶴を折る人々の写真、海外から寄せられた折り鶴などを展示している。色とりどりの折り紙も置かれ、その場で自由に折ることができるほか、自宅で作った折り鶴を持ち込める「ポスト」も用意している。

折り鶴は、大阪・関西万博の海外パビリオン関係者に配られる公式記念品に採用されている。角脇さんは「自分の折った鶴が海外につながっていると想像するだけで、閉じ籠もりがちな高齢者が希望を持てるようになった」と喜ぶ。パビリオンを企画したケアマネジャーの森安美さん(53)は「認知症になっても最後まで輝ける場を作りたい。『一番乗りのパビリオン』として、万博のテーマ『いのち輝く未来社会のデザイン』を世界に広げていく」と意気込む。

入場無料で、午前11時～午後4時(不定休)。問い合わせは事務局の市社会福祉協議会(06・6902・6453)。

牛井中
米国籬
地検、威
牛井中
撮影しなが
を流して業
して、地検
のイスマエ
カリド容疑
務妨害罪一
た。一方、
で侵入し
入容疑に

紙手絵を描く筆オールド

泉佐野
製造業に
たオールド
描いた絵
空港内の
港で展示
な色彩と